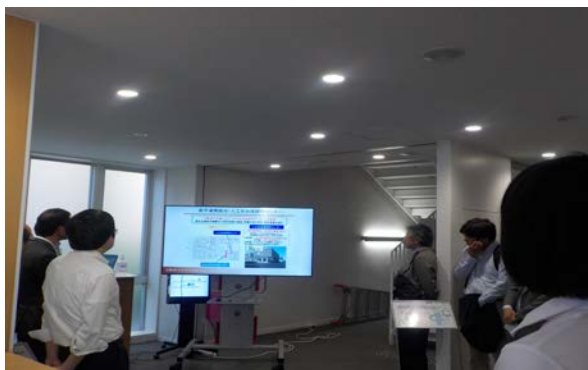


大阪府立大学人工光合成研究センター における最新研究成果紹介と施設見学 会を実施

2017年5月19日（金）に、大阪府立大学学術情報総合センターにおいて、低温工学・超電導学会関西支部の総会及び第1回講演会が、大阪府立大学理学研究科の共催のもと開催されました。この講演会において吉田朋子人工光合成研究センター副所長が「人工光合成を目的とした固体光触媒の設計」と題し招待講演いたしました。



講演では、石油・石炭などの化石資源に代わって二酸化炭素を炭素資源として有効に利用することや、その化学変換を化石資源から得たエネルギーではなく、太陽光エネルギーや水を使って行う意義を述べ、人工光合成は豊かな人類社会を持続させるために重要な課題であることを説明しました。また二酸化炭素を工業化学における重要な原料である一酸化炭素に変換する固体光触媒や、太陽光エネルギーを高効率で利用する可視光応答型光触媒の設計に関する最新の研究成果を披露しました。



講演会後には、低温工学・超電導学会員（約50名）が人工光合成研究センターの施設見学をされました。見学会では、パネルプレゼンテーションとして、人工光合成研究センター設立の趣旨や、本センターが平成

28年度に文部科学省共同利用・共同研究拠点として認定を受けたことを説明しました。また本センターが平成29年度大阪府立大学戦略的重点研究として採用された研究課題「人工光合成研究拠点を活用した低炭素エネルギー循環型都市創造への戦略」についても紹介しました。



本センターは、共同研究講座・部門のための化学実験室、生化学実験室および分析機器施設を備えています。核磁気共鳴分光計（cryoprobe NMR）、フーリエ変換イオンサイクロン共鳴質量分析計（FT-ICRMS）、超高輝度X線結晶構造解析装置などの最先端分析装置も見学して頂きました。これらの装置は本学内での利用はもとより、学外からの利用にも対応する体制を整備しています。



人工光合成研究センターは、このような施設見学会や随時開催しています。また今年度も定期的に研究講演会を開催いたします。人工光合成拠点のホームページやFacebookで最新情報をチェックしてください。

人工光合成研究拠点 ニュースレター

第2巻・第3号平成29年6月23日発行

発行責任者：天尾 豊（大阪府立大学人工光合成研究センター所長）

編集責任者：吉田朋子（同副所長）

<http://recap.osaka-cu.ac.jp/ap-coe/index.html>